

志賀直哉全集

第十二卷

志賀直哉全集 第十二卷

第十一回配本(全十四卷・付別卷)

昭和四十九年四月三十日 發行

定價 二千四百圓

著 者 志 賀 直 哉

發行者 岩 波 雄 二 郎

東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號

發 行 所 株式會社 岩 波 書 店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

目次

明治二十七年	三
明治二十九年	四
明治三十五年	六
明治三十九年	一〇
明治四十年	二七
明治四十一年	二九
明治四十二年	三三
明治四十三年	三八
明治四十四年	四〇
明治四十五年・大正元年	四三

大正二年		五三
大正三年		六〇
大正四年		六八
大正五年		七四
大正六年		八四
大正七年		九七
大正八年		一〇三
大正九年		一二一
大正十年		一三八
大正十一年		一六一
大正十二年		一八二
大正十三年		二〇七
大正十四年		二二四

大正十五年・昭和元年	二五四
昭和二年	二六九
昭和三年	二八三
昭和四年	二九六
昭和五年	三二〇
昭和六年	三三五
昭和七年	三四七
昭和八年	三五九
昭和九年	三六七
昭和十年	三八四
昭和十一年	四一六
昭和十二年	四四六
昭和十三年	四九〇

昭和十四年	五四三
昭和十五年	五七二
昭和十六年	六〇五
昭和十七年	六三六
後記	六四七

明治二十七年——昭和十七年

明治二十七年(1894)

明治二十七年(一八九四)

1月6日

半谷重固宛(磐城國標葉郡熊村大字熊川)〔封書〕
東京芝公園より

新年之賀儀目出度申納候 昨年中は一方ならざる御懇情を蒙り奉謝候 今年も不相變御厚誼之程偏エニ願上候 次
ニ卅日には東京に珍き物澤山に被下有が度存じ候也 不宣

半谷重固様

志賀直哉

明治二十九年（一八九六）

2月7日 志賀直道宛（安房國北條木村屋方）〔封書〕
東京芝公園十七號より

二

拜啓 御祖父様に於ては無事御安着の由御目出度事に御坐候 且つ海上も穩に御座候由安心致候 當地も餘程春め
き候 さて貴地は鳥少き候由さぞかし御たいくつに候べし 又御祖母様の御病氣も甚だよろしく御座候得ば御安心被
下度候 次に私儀も今度の日曜には舟遊に進いる心得に候へば安心被下度候 前申上候如く寒さ次第に薄らぎ候間何
程早く御歸京の程願上候 不宣

なをや より

御祖父様

二月七日

2月11日 志賀直道宛（安房國朝夷郡千倉温泉二百六十七番地渡邊太十郎方）〔封書〕
武藏國東京府東京芝區芝公園第十七號番志賀直道方より

三

拜啓 去る八日は御書面差上候得共温泉へ御出發後にて残念の至りに御坐候 又御祖母様の御病氣も甚だ宜く候間

明治二十九年(1896)

御安心被下度候 次に小生儀も無事勤學致居り候 又一昨日の日曜日にも大雨雷鳴をおかして「ボート」に参り候得
共殊の外愉快を感じ候 不宣

當地も餘程寒氣は薄らぎ春めき参り候

◎間何程早く御歸京の事

◎願ひ上候 敬白

志賀直道殿

志賀直哉拜

明治三十五年（一九〇二）

7月22日

田中平一宛（相州鎌倉郡川口村字片瀬岩田九郎エ門方）〔封書〕
〔發信地不明〕〔日付に「朝」と付す〕

四

平一君

二十二日西郷侯葬式ノ日 朝

早速御手紙ドオモ誠ニ難有う

昨日ハ朝雨故之レハト大ニ氣毒ニ思ヒ居リ候處いゝ案梅ニ九時頃ヨリ Europe ト相成リ大ニ喜ビ申し候
黒木ヤ本多ヤ園田ニ御會ノ時僕ノモ一寸ツイデニ御慰メ被下タク候

其後當地デノ出來事ト云フト

(1) 一昨夜僕ノ乗ツタ車夫ハ開業間モ無キモノニテ身上話ヲ聞クト中々可憐故五十錢クレテヤリ申シ候（四谷ヨリ氷川マデ）一寸僕感心ダロオ 然シ又ヨク考ヘルト五十錢有ルト大福餅ガ百買ヘルカラネ……

(2) 昨日一人デ丸善ニ行キ Oliver Cromwell ト云フ本ヲ買フト思ツタラ大層高クテ（七圓某）ヘキエキシトルストイ著
ノ The Spirit of Christ's Teaching ヲツツ price one penny ノ本ヲ買ツ歸リノモ中々オカシカリキ

(3) 今朝家ノ子供湯殿ノ火ヲ焚ク處デ小便シおばあサンニ「罰ガ當ツテちゃん／＼がまがるよ」としかられ申し候

(4) 昨今ハ中々いゝ夢バカリ見申し候

昨日見た夢ハ Little Lord Fountleroy ト博物館ニ行キ馳ケツクラヲシテ僕ガ石ノ上デスベリカケタ處デ夢サメ大ニ残念致シ候

此度ハ僕の方カラ聞クヨ

(1) 君等ノ宿舍ノ同ジ人ハ誰々ナリヤ

(2) 山二ツの老婆ハ元氣ニ候ヤ

(3) 來テル先生ハ誰々ナリヤ

(4) キヤタツ・鐵棒ハアリヤ

(5) テニスハ有リヤ

(6) 何ヲシテ遊ビナサルヤ

(7) 有馬ハ江之島ニ居リヤ(居レバ宜シク)

(8) 赤陸軍ハドコニ泊リ居リヤ

(9) 笛ヲモツテ行ツタカイ?

(10) 片瀬川ノ水畫有リヤ

(11) 君ノ宿舍ニのみ居リヤ 何疋程カ一寸數ヲ御調べ被下タク候

(12) 勉強ハ出來マスカ?

右ノ内十問題を撰ベ

一題一點

十點満點

第二紙

昨夜弓彦ノ所ニ行キ又十時過ギマデ議論サ

問題ハ學校ノ鹿兒島會ヲよせよさないノ事ニテ、小生勝利ノ氣味ニ候

弓曰ク「僕モ立派ナ理屈ガ有ルガ夫レヲ云ツテモ君ニハワカラヌ……又イ、機リニ云フ」ナドスコブルヅルイ口上

志曰ク「マア云ツテ見タマヘ」

弓「云ツテモ君ハ服サンニキマツテルカラマアヨソオ」ナド公

平ナ行司ガ居タラ先ヅ軍扇ハ此方ト思ヒ候

弓彦ノ所ノ女ノ子大層ヨロシキ由ニ候

His ma ハ昨夜歸リシトテ居リ候

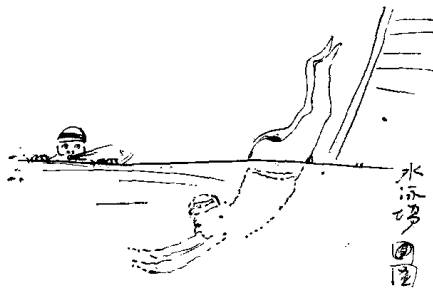
君食ヒ過ギテ虎刺良^{マコ}ニナル勿レ

さゝゑノ壺焼アマリヨロシカラズ

僕明日岩元さんト云フ人ト葉山ニ行キ候 多分日歸リト存ジ候

小生横笛多分上手ニナリソオニ候 餘ハ後便ヲまで!!!

Good bye



7月26日

田中平一宛(相州鎌倉郡川口村片瀬岩田九郎エ門方)〔封書〕
四谷(消印)より

平 一 君

二十六日

志 賀

御手紙 Many Thanks 答案ハまずよし九點

僕逗子に行キ二日間ばかり遊んだが中々愉快でした 御地に行く筈なりしも遂やめ申し候
小生いよ／＼昨日引越しまつり候

東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷村八百五十三番地

世帯ヲ持ツトイヤ中々ウルサイモノデ一例ヲ上ゲレバ

サア ネヨウカ 蚊帳ヲツロオ……ナニ 蚊帳ガナイ ウソツケ持テ來タヨ…… ウン蚊帳ハアルガ蚊ヤノツリテ
ガナイ?…… カマアモンカイ スグ釘ニ引掛ケロイ…… ナニ其釘モ無いツテ困マルナア 今迄デ居タ奴ハ何ニ
シテタンダナア(君奴ツテ云フノハ^{Uchi}ノシタマヒナ) ジャアイ、カラ御向フノ差配サンノトコニ行ツテ釘ト金鉋ヲカ
リテコイヨ ナド云フ始末 中々ニ面白シ

御地ノ天候如何 當地ハ今日ハFranceに御坐候 早々

明治三十九年（一九〇六）

4月2日

田中平一宛（東京市赤坂區臺町二七）〔はがき、複寫〕
千葉縣鹿野山①方より

六

先日は夕方ワザ／＼來て下さつたさうでしたが生憎留守で失敬しました。僕は、アノ翌日から獨りで此所へ來てゐますが、其靜な事といふたら、勉強をしずにはゐられない。これで勉強しない人があつたら偉い。所で僕は偉くないから勉強してゐる。藤村の破戒を持つて來てゐる、未だ讀まぬ、君もいづれ讀むで御居での事と思ふ、然し恐らく君の氣には入るまいと考へる。休中は此方らへゐる、つもり、然し手紙は出さないから惡しからず 早々頓首、

4月2日

武者小路實篤宛（東京市麴町區元園町）〔はがき、複寫〕
千葉縣鹿野山①方より

七

實に靜かだ、勉強しずにはゐられない。これで勉強しない人があつたら、偉い 讀めてやる。所で僕は偉くないから勉強してゐる、然しこれから木のスの連中でも來れば偉くなりさうで心配してゐる。兎に角何時來てもいい所は鹿の山だ、廣い宿屋は僕一人の領する所、否此地の客としては僕一人かも知れぬ、日々の生活は理想通り單調なものねる。食ふ。讀む。これだけ、君の生活に近かついた。早々